

姫路市立高等学校在り方方針（案）に関する市民意見
（パブリック・コメント）の募集結果について

1 市民意見（パブリック・コメント）の概要

(1) 意見募集期間

令和4年12月21日（水）～令和5年1月20日（金）

(2) 意見を提出できる方（法人その他団体を含む。）

ア 市内にお住まいの方

イ 市内に事務所又は事業所を有されている方

ウ 市内に通勤又は通学されている方

エ 市税の納税義務がある方

オ 意見募集の対象となっている案件に利害関係のある方

2 提出された意見について

(1) 提出件数

- ・ 市民意見 31通 88件
- ・ 参考意見 1通 1件（上記1(2)以外のもの）

(2) 意見の内容

項 目		件 数	
		市民意見	参考意見
1	市立高等学校の現状と課題	2	0
2	基本方針		
(1)	市立高等学校の目指す姿	1	0
(2)	市立高等学校の再編	34	0
(3)	新設校の校地	12	0
(4)	市立高等学校の教育改革	11	0
3	今後のスケジュール	19	0
	[その他]	9	1
	合 計	88	1

3 提出された市民意見とそれに対する考え方

【1 市立高等学校の現状と課題】

No	提出された市民意見（要旨）	考え方
1	校舎の老朽化については、計画的な補強、補修工事、建替などを行えば、統合高等学校の土地取得、大規模校舎を建設するより費用が少なく済むのではないか。	施設の改修を定期的に行うことで、一定期間の長寿命化を図ることは可能ですが、市立3校の施設は、40年を経過した建物がほとんどであり、いずれは建て替えが必要な状況になります。大規模改修等、3校をそのまま維持するために必要な経費は、姫路市学校施設長寿命化計画策定時の試算では、今後40年間に約188億円必要であると想定しております。施設や教育内容を充実させることで、新しい学びに対応した教育環境を提供してまいります。
2	施設の老朽化が進み、財政運営に課題があるようだが、老朽化対策にいくら財源が必要なのか示してもらいたい。	

【2 基本方針】

(1) 市立高等学校の目指す姿

No	提出された市民意見（要旨）	考え方
3	保護者の進路選択にも関係する部分であるため、目指す生徒像を明確に示してほしい。詰め込みすぎず、理想を高くしすぎず、県立高等学校とのバランスを考えながら設定してほしい。	進路選択に関係する重要な部分であることから、基本方針を踏まえ、今後できるだけ具体的に情報を提供してまいります。

(2) 市立高等学校の再編

No	提出された市民意見（要旨）	考え方
4	市内の県立高等学校が3校も統合される中、市立3校を1校にすることは、あまりにもひどいと思う。	少子化が進む中、1校あたりの生徒数が減少する状況が続いています。学校の活力を保ち、高校時代に必要な学びを提供していくためには、一定の規模を持った高等学校であることが必要です。再編により、校数は減りますが、中学校の卒業生数に見合った学級数が確保されるよう、しっかりと兵庫県教育委員会と情報共有してまいります。

5	<p>発展的統合により、3校のこれまでの歴史にピリオドを打ち、新市立高等学校として、市立高等学校の新たなステージになることを期待している。3校それぞれの強みを活かしつつも、どこかの1校に偏ることはやめてほしい。</p>	<p>3校ある市立高等学校を再編し、1校の市立高等学校として、新たなステージを迎えます。現在の3校の特長や教育内容は発展的に継承しつつ、本市の成長と発展につながる全国に誇れる新たな市立高等学校づくりを進めてまいります。</p>
6	<p>県立高等学校が大幅に減らされ、長時間の通学を要する子どもたちがたくさん出てくること予想される中、市立高等学校もなくなると、市南部の子どもたちは、ますます通学が困難になってしまふ。通学距離や時間が長くなることは、生徒の身体的負担もさることながら、保護者にも経済的負担、身体的負担を強いることにつながる。</p>	<p>学校の活力を保ち、高校時代に必要な教育環境を維持、充実させていくためには、一定の規模を持った高等学校であることが必要です。そのための再編に当たっては、学区全体で学校の配置状況を勘案しながら進める必要があります。</p>
7	<p>網干高等学校、家島高等学校が姫路南高等学校に統廃合されるうえ、飾磨高等学校、琴丘高等学校までがなくなると、市の南西部に、通学しやすい学校がなくなってしまふ。遠方の学校への通学には、交通費の負担が増えるだけでなく、時間も相当かかり、身体の疲労、家庭での学習時間の減少など、マイナスの面が多くなる。</p>	<p>新校舎の建設地については、できるだけ幅広い地域からも通学が可能となるよう、交通利便性や立地条件などを十分に考慮してまいります。</p>
8	<p>家島高等学校、網干高等学校が姫路南高等学校に統合されるという状況で、飾磨高等学校を姫路高等学校に統合すると、南西部に居住する子どもたちの進学先が極端に狭くなる。どこかの高等学校に行けたとしても、通学距離がとて長くなる。</p>	
9	<p>現在の姫路市中央卸売市場用地の跡地利用については、交通の利便性は良いが、県立高等学校も再編される中、中心地に学校が集中し、ますます南部の生徒の通学に支障が出てしまうように思われる。交通の便が良いのはもちろん良い事だが、学校が家から近いということも魅力の一つでもあると思う。</p>	
10	<p>高等学校数の減少は、ただでさえ通学区域が広く、通学費用と通学時間が生徒や保護者にとって大きな負担となっている現状を、さらに悪化させることになる。</p>	
11	<p>高物価やコロナ禍のもと遠距離通学する生徒が増えることなど、一層保護者の負担が大きくなる。</p>	
12	<p>飾磨高等学校がなくなると、姫路の北部や西部にしか高等学校がなくなってしまふ。高等学校を中心部ばかりに集めないで、全域に置いてほしい。</p>	
13	<p>学校をなくすと、子どもたちの学習権を奪うことになる。高等学校をなくさず、充実してもらいたい。</p>	

14	<p>県立高等学校の数も減るのに、市立高等学校の数も減ると市内の高等学校に通えない子どもが増えると思う。姫路市の子どもたちは姫路市の高等学校に通えるようにしてほしい。</p>	<p>学校の活力を保ち、高校時代に必要な教育環境を維持、充実させていくためには、一定の規模を持った高等学校であることが必要であると考えております。</p>
15	<p>10 学級程度の新設校 1 校では、学級数が大きく減少する。市内の県立高等学校 3 校に加え、同時期に市立高等学校を 2 校も減らして、姫路の子どもたちが入学できる高等学校を保証できるのか。</p>	<p>学区ごとに必要な学級数は、これまでと同様、中学校卒業者数に応じて確保しますので、高等学校に入学しにくくなるということはありません。</p>
16	<p>県立高等学校も再編され、公立高等学校の選択肢が狭まり、現在の複数志願制の場合、受け皿となる学校が減ることになる。受検への不安や私立に入学せざるを得ない生徒が増え、家庭の経済的不安にもつながるのではと思う。</p>	
17	<p>市内の県立高等学校でも統廃合の方針が出されている中、市立高等学校の学級数が現在の 18 学級から 10 学級になることは、生徒数減に対する学級減の割合があまりにもかけ離れている。公立高等学校に通える生徒が減らされるのではないか。</p>	
18	<p>県立高等学校も統合し減っていく中、市立高等学校も 3 校が 1 校になることで、子どもたちが安心して高等学校教育を受けられるかを大変心配している。</p>	
19	<p>高等学校の減らし方が極端に多く、長い年月をかけて少しずつ減らす方法もあるのではないか。公立高等学校に入れないう子どもが増えて、親の負担も増える。</p>	
20	<p>偏差値の異なる学校が統合することにより、これから高等学校進学を控えている子どもたちの選択肢が減ってしまう。入学者募集人数が現在の 3 校よりも少なくなると、高等学校へ進学できない子どもたちが増えてしまうのではないかと不安に思う。</p>	
21	<p>新設校では、8～10 クラスが計画されているが、現在の 3 校の合計 18 クラスの 1 / 2 の人数しか入学できない。そこまで生徒数は減少していかないのではないか。</p>	

22	<p>市立3校は、偏差値がそれぞれ異なり、学習面で差が大きいと思うが、どのように差を埋めていくのか。</p>	<p>学校の評価については、3校の統合校という側面のほか、新たに1校の市立高等学校を設置することで、その学校の教育カリキュラムや学校施設等の教育環境により評価が定まってくるものと考えております。また、学級数を増やし、幅広い教育カリキュラムを展開することで、多様な魅力ある生徒が集まる学校を目指してまいります。</p>
23	<p>学校をなくすのではなく、子どもたちの人数が減っている今こそ、少人数学級で充実した教育ができる環境を整えてほしい。</p>	<p>少人数学習も含め、手厚い教育を進めていきたいと考えております。教科等横断的な学びと個別最適な学びを進めていくためには、生徒間の交流や学び合いによって成り立つ学習や、多様な選択肢のある教育環境などが必要であると認識しております。大規模な学校に</p>
24	<p>学校数を減らすのではなく、少人数学級に変更するなどの政策はいかがか。</p>	<p>することによって、様々なスタイルの学習が可能になるものと考えております。</p>
25	<p>生徒が減少する時こそ、少人数で一人一人行き届いた教育をする絶好のチャンスだと思う。県立高等学校の統廃合に横並びするのではなく、県立高等学校に負けない3校を残してほしい。</p>	
26	<p>市立高等学校が統合されると、中学3年生の進路指導が余計過酷なものになる。子どもたち一人一人を大切にするためには、少人数学級で手厚い教育を行うことが良いと思う。</p>	
27	<p>市立高等学校の統廃合は、生徒や保護者、西播地域の将来の経済発展にとって、重大な影響を持つ問題である。生徒が減少傾向にあるならば、少人数学級を行い、充実した教育を目指すべきだ。</p>	
28	<p>高等学校も35人数学級を目指せば、統合する必要はなくなると思う。</p>	
29	<p>県立高等学校の統廃合も進められており、姫路市から5校がなくなることになる。少人数学級を高等学校でも進めるべきだ。</p>	
30	<p>姫路市だけに高等学校の統廃合を一気に押し付けるのはいかがか。35人学級を進めることが先決ではないか。</p>	
31	<p>学級数が減ると色々支障があると言うが、少人数学級にしたら良いのではないか。</p>	
32	<p>市内の県立高等学校が3校なくなる上、市立高等学校が2校もなくなることは大きな問題だ。少人数学級を実現し、選択肢を増やし、近くで自分に合った希望する高等学校に行かせてあげてほしい。</p>	

33	少子化のため、市立高等学校を統合するのではなく、教員数は維持したまま少人数学級へ移行し、学習の遅れがある子のフォロー、子どもたちの悩みや特性への寄り添いなど、互いが密にコミュニケーションを取ることができるようにし、子どもたちのより良い将来に繋げるよう進めていく公立の学校が必要だと思う。	
34	統合によって浮いた教育予算が他の事業に使われることなく、姫路市の教育の充実のために使われることを強く希望する。	今後、少子化は更に進行する見込みであり、また、学校施設の老朽化も進む中、市立高等学校の更なる充実に向け、検討を進めております。
35	市立高等学校を1校にするようだが、そんなに急に減らさなくても良いと思う。少子化は進んでいるが、少子化を食い止める政策を考えたら良いのではないか。姫路市は教育にもっとお金を使うべきである。	新たな市立高等学校においては、1校に財源を集中させることで、充実した教育内容の提供と学校施設の抜本的な整備を行い、より一層市民から親しまれ、生徒が憧れる学校にしたいと考えております。
36	「活力ある姫路」を創造するためにも市立高等学校の「再編」に当たって、「採算」に拘泥することなく「人的資本」への投資を「方針」の柱の一つとすべき。	
37	3校はどこも人気のある学校であり、それぞれの地域にとっても大切な教育の場である。市立高等学校の統廃合は、費用の問題とのことだが、現在の姫路市中央卸売市場用地に校舎を新設する費用はどうするつもりか。	

(3) 新設校の校地

No	提出された市民意見（要旨）	考え方
38	なぜ姫路高等学校に統合するのか。	新校舎の建設地については、現在検討中ですが、新たに整備するには期間を要し、少子化の進行により学級数が維持できなくなることや、施設の老朽化といった課題が深刻化します。
39	統合先を現在の姫路市中央卸売市場用地としていたにもかかわらず、急遽、当面は姫路高等学校としたことは納得できない。	また、県立高等学校の教育改革が進められていることから、立地や施設の状況等を踏まえ、まずは姫路高等学校の校地で新設校を設置し、教育環境の充実に努めてまいります。
40	3校の中でも姫路高等学校は交通の利便が良いと思えない。また、10クラスになれば教室数が足りず、老朽化や設備的にも十分ではないうえ、学校に駐車スペースもないなど、課題が多いように思う。	
41	飾磨高等学校は、敷地内に広い駐車場があり、周辺に住宅が密集しておらず、住民からの苦情もない。市街地からは離れているが、駅から近く通学の負担もない。2025年に統合される県立3校が姫路市の南側に集中していることや、家島などの離島の子どもの進路選択の幅を減らさないことを考えるならば、校舎は飾磨高等学校を利用するのが最善だと思う。	

42	校地の選定があいまいで、市民に対して不明確である。	
43	新校舎は姫路市内からアクセスの良い手柄が適切だと思う。	新校舎の建設地については、通学利便性や敷地面積、学校配置のバランス、教育環境などを考慮する必要があると考えております。
44	現在の姫路市中央卸売市場用地は、市の中心部でまとまった面積を有する最後の土地であり、官民を問わず、有効な利活用が見込める最後にして最優良の物件であることから、当該土地には都市の魅力をもっと高め、誘客の見込める施設を立地すべきである。新設校の校地は、交通利便性に優れていることや近隣には豊かな自然環境が広がっており、近隣施設と連携した学習も可能であることなどから、太市駅周辺が最適ではないかと考える。	
45	移転候補地の姫路市中央卸売市場用地で新設校をつくるとなると、面積の半数以上が私有地で交渉に相当な時間がかかるうえ、莫大な予算が必要となる。	新校舎の建設地については、通学利便性や周辺環境などを考慮し、生徒にとってより望ましい場所で整備したいと考えております。時間と予算を必要としますが、教員や財源などの資源を集中させ、充実した教育内容の提供と施設の抜本的な整備を行うことで、市民から親しまれ、生徒が憧れる学校となるよう努めてまいります。
46	現在の3校のうち1校を建て替え、完成までの間、2校を使う選択肢はなかったのか。財政的な課題が統合再編の理由の一つであるなら、新設校の完成を待って統合再編の方が、用地買収する時間もお金もかからず、良いスタートが切れると思う。	
47	3校のこれまで培われてきた「校風の継承」という部分があり感じられない。	今後具体的に検討を進めながら、特色や伝統を発展的に継承し、より魅力ある新しい市立高等学校づくりを進めてまいります。
48	一旦姫路高等学校に新設校を置くとすると、琴丘高等学校と飾磨高等学校を廃止して、姫路高等学校に統合することにもなりかねない。	
49	一旦姫路高等学校で開校するとなれば、結果として姫路高等学校を残し、琴丘、飾磨高等学校を閉校したことになるのではないかと。新設校と姫路高等学校は、同じ敷地内にあっても別々の高等学校として学校運営を行わなければ「3校を1校に統合する」ではなく、「3校のうち1校を残す」になる。あくまでも3校を1校に統合する姿勢で進めてもらいたい。	

(4) 市立高等学校の教育改革

No	提出された市民意見（要旨）	考え方
50	Society5.0 時代に対応した教育環境の創造に向けた教育施策の確立をする為にも、時間と空間（学びの場所）に囚われない「自由な学び」を保障する教育環境の創造の方針を明記してほしい。	新設校における教育内容については、生徒の興味・関心や、多様な進路選択に対応できるよう、今後具体的に検討してまいります。
51	介護士をはじめ福祉従事者の育成という特色を活かす為に、飾磨高等学校の福祉実習施設等を利用し、「卒業と同時に資格取得可能」といったカリキュラムの創造、また、既存の市立3校の施設設備等を一般に開放し、民間活力の導入による「産学一体」の教育カリキュラムの創造や、午前中は中心学舎で学び、午後は既存の市立3校を学びの場所とし、特色ある施設設備を活用した「分散学習」を行うことも可能だと思ふ。	
52	学舎の姫路高等学校の一時的利用、或いは現在の姫路市中央卸売市場用地への新校舎建設等は、「交通至便」とは言え「都市部集中」は避けられない。家島や安富、夢前といった地域における学びの場所の確保も必要と思ふ。既存の県立高等学校等の施設設備を活用した「リモート授業」の導入等によって、それぞれの地域性を生かした教育ネットワークが構築できると思ふ。	一定の学校規模を確保し、多くの教職員や生徒と実際に触れ合いながら、同じ場所で学び、部活動に励む等、生き生きと高等学校生活を送ることが重要だと考えており、学ぶ場を分けることは考えておりません。
53	一般的な公立高等学校では、県内初のケースとなり、優秀な生徒が集まり進学実績で県立トップ校や有名私立高等学校に肩を並べることも可能であること、中学受験を目指すにも私立しかなく、経済的な理由であきらめざるを得ない子どもにも道を開くことになることなどから、附属中学校設置の方針に期待する。	本市のリーディング校として、先進的な教育への取組の研究、実践を進め、その成果を市立小・中・義務教育・特別支援学校にも還元できるよう、中高一貫教育の導入についても検討してまいります。
54	附属中学校の設置とあるが、エリート教育は私立に任せればよい。私たちの税金で賄われる公立の中学校は、一部の「選ばれし者（子ども）」のための学校であるべきではないと思ふ。	
55	「中高一貫教育を推進」という点が、今まで姫路市が進めてきた「小中一貫教育」の方向性と矛盾している。	
56	中高一貫校となれば、小中一貫教育で地域と密着ということが崩れる恐れがある。	

57	中高一貫校の場合、入試を小学6年生ですのであれば、高等学校入試の選択肢が減ることになる。	中高一貫校の導入については、今後検討してまいります。全員が附属中学校から入学することを想定しているものではありません。
58	中高一貫校にすると、その学校は高等学校受検の対象ではなくなる。	
59	中学校受験になると、現在の入試制度に支障はないのか。	
60	中高一貫教育は、6年間同じ環境となるが、多感な時期には、たくさんの人たちと関わる方が良いと思う。	

【3 今後のスケジュール】

No	提出された市民意見（要旨）	考え方
61	市立3校の跡地は何に利用するのか。	再編後の市立3校の既存施設については、今後、具体的に検討してまいります。
62	既存3校の校舎についても、統合後の活用等、市民の関心は高いので、明確な説明が欲しい。	
63	姫路高等学校には、開設以来市民に親しまれているパルナソスホールがあるが、統合されてもパイプオルガンを含め、引き続き活用してほしい。	
64	姫路高等学校にあるパルナソスホールは、別の文化・芸術的な事業を進めるための公的施設として利用できると思う。	
65	学校がなくなった場合、避難所はどうなるのか。	
66	子どもたちや保護者、教育関係者の意見をよく聞いて検討しなければならないと思う。	市立高等学校の在り方については、学識経験者や市立高等学校の3校長、小中学校長、PTA会長、公募委員等からなる姫路市立高等学校在り方審議会により審議を重ね、中学生や在校生、保護者へのアンケートも行いながら、令和4年2月に答申をいただきました。今後、方針に基づき、教育カリキュラムや学校運営等の具体的な検討を進める際は、教職員等関係者とともに協議を進めてまいります。また、中学生や保護者の不安を払拭し、理解していただけるよう、進路選択への影響に配慮しながら説明に努めてまいります。
67	もっと広く多くの意見を聞いて進めてほしい。	
68	在校生や保護者の知らない中で方針ができており、もう少し早めに知らせるべきである。	
69	広く保護者や先生方にも周知徹底せず、早期に決めてしまうのは早計ではないか。	
70	もっと丁寧に市民、特に若い保護者世代に説明するべきである。	

71	住民参加で多方面の意見を聞き、多様な方策を検討した上で、圧倒的多数の方々の合意に努めてもらいたい。	
72	中学生の保護者や教員、卒業生、市民に説明せず、数回の審議会だけで進めていこうとしている姿勢に抗議する。今からでも丁寧に説明会等を開催し、オープンにしてほしい。	
73	この方針が決定するまでに現状や統廃合の理由を知ることができなかった。住民説明会を開き、時間をかけて市民に説明することが必要だと思う。	
74	県の動きを見て市立高等学校の統廃合を考えるとということだったが、県の動きと関係なく「統廃合ありき」で進められているように思う。もっと丁寧に各中学校区ごとの住民説明会を開くなど、市民に説明すべきである。	
75	パブリック・コメントで住民の意見を聞いたとしないしてほしい。最低でも対象3校の地元での住民説明会を開催するべきだ。	
76	パブリック・コメントによる市民意見の把握方法では、民意を十分につかめない。市民に影響を大きく与える事業の変革に当たっては、誰もが質問したり、意見を述べることのできる説明会を初期の段階で行うべきだ。	
77	新設校が移転するまで、姫路高等学校と新設校が一旦同じ敷地になるが、仮とはいえ、落ち着いた環境であることや学校行事がきちんと実施できることが必要かつ重要であると思う。	令和8年度に統合新設校が設置されてから2年間は特に、4校が併存する状況となることから生徒たちが安心して学校生活を送ることができるよう、教育環境を充実させ、慎重に対応する必要があると考えております。具体的な教育カリキュラムや学校運営等については、市立高等学校の教職員と教育委員会が協力しながら検討することになりますが、いずれの学校の生徒も充実した教育が受けられるよう、丁寧に準備を進めてまいります。
78	飾磨高等学校や琴丘高等学校は、令和9年度には第3学年のみとなるが、子どもたちは希望をもって入学できるのか。また、そのことが将来どれだけ影響するのか。この課題を抱えた子どもたちや親の不安は計り知れない。	
79	幅広い偏差値の学校が合併することで、初年度の高等学校受検に混乱が生じるかもしれないので、受検生たちが不安にならない公平な進路選択ができるよう情報提供をお願いしたい。	

【その他】

No	提出された市民意見（要旨）	考え方
80	審議会の委員構成に人権教育の識者が含まれておらず、審議の過程でも人権の視点が全く議論されていない。新しい学校の創造は、ハード面や教育方法等が重視されるが、根本的には、「人を大切」にし市域における「社会経済・文化活動を活性化」するためにも人材育成が重要であることから、人権の視点を明記してもらいたい。	審議会委員については、学識経験者や市立高等学校の3校長、小中学校長、PTA会長、公募委員等から構成されており、様々な立場の方から幅広くご意見をいただいたものと考えております。 学校運営を行う上で、人権の視点は必ず持ち合わせておくものであり、今後、具体的な検討を進める中で、今回いただいたご意見の視点も忘れずに取り組んでいくとともに、関係者の意見を聞きながら検討を進めてまいります。
81	審議会のメンバーに人権教育に関わる識者と「当事者」が含まれていなかったことは残念。審議会に参加した「当事者」が、市立3校の校長先生に限られているが、アンケートという間接的な手法ではなく、直接会議に参加して意見を聞く機会があっても良かった。	
82	学校がなくなった地区は、過疎化が進むと思う。	このまま何もしなければ、生徒数の減少により、将来的には現在の学級数を維持することが難しくなり、望ましい学校運営が困難になることが予想されます。何よりも次代を担う子どもたちの教育環境を充実させることが重要と考えております。
83	学校の統廃合は、地域の衰退につながる。	
84	学校がなくなるとさらに少子化が進み、地域経済に大きな影響を与えることになる。	
85	校名は「姫路市立しらさぎ教育学校」「姫路市立しらさぎ学園」等が望ましい。	今後具体的に検討を進める中で、新たな市立高等学校としてふさわしいものを検討してまいります。
86	附属中学校ではなく、大規模校の問題解消のための新たな校区編成や公立中学校の設立を私たちの税金で実現してほしい。	市立小中学校の大規模校の問題解消については、令和2年2月に策定した姫路市立小中学校適正規模・適正配置基本方針に基づき、取組を進めているところです。
87	少子化対策として、学校数を減らすのではなく、子育てしやすい働き方改革、子育て世代への経済的支援、高等学校卒業までの医療費の助成・無料化などの対策を充実させてほしい。	子育て支援の更なる充実に関するご意見として、参考にさせていただきます。
88	附属中学校をつくる余裕があるなら、各学校の未配置がなくなるよう努力する、各学校に司書を全日配置する、各学校にスクールサポートスタッフを全校配置するなど、やらなくてはいけないことがたくさんあると思う。	教員をはじめ、学校スタッフの配置は、教育環境を充実していくために優先的な課題であると認識しております。市立高等学校については、再編により、教員を集中させることで、充実した教職員配置を目指してまいります。
※	あたたかく、栄養バランスの良い食事を安価で提供できるなどの観点から、学校食堂の設置が重要と考える。	新設校においては、施設設備の充実を図り、より一層生徒が憧れる学校にしていきたいと考えております。

※印は参考意見。（募集時に示した市民意見提出手続制度の対象外の方のもの）